

#口腔機能低下症
#口内炎#口腔乾燥
#嚥下障害#顎関節症
#ブレスケール

口内炎が治らない、噛み合わせが原因かも?!

～歯がしみる、口が渴く、話しづらい、ムセるなども…～



歯学博士 朝倉勉 院長

日先研認定医指導医
大阪大学歯学部歯科医師
臨床研修指導医

日本糖尿病協会歯科医師登録医

朝倉歯科医院

インプラント審美補綴研究所
大阪大学歯学部臨床研修施設

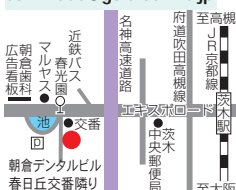
小児歯科Happy club

ホワイトニングサロンBLANCA
茨木市南春日丘1-1-19

☎072-625-2001

☎0120-468-321

com21adc@gold.ocn.ne.jp



難治性口内炎、口腔乾燥、嚥下障害、知覚過敏、顎関節症等は様々な要因によって引き起こされ、噛み合わせがその原因となることがあります。噛み合わせが悪いと、歯や歯茎に不必要なストレスがかかり、これが炎症を引き起こします。噛み合わせを改善すると、歯の応力負担が軽減し、唾液の分泌が促進され、ストレスも減り、不定愁訴が改善されます。治療は、歯列矯正、咬合調整、マウスピース治療、補綴物の形態の修正などで、マウスピース治療は、噛む力を弱めて歯や顎への負担が軽減され、歯を保護する役割です。咬合の診断はブレスケールで

診断し咬合調整することで、噛めない、飲み込みづらい、むせるなどの問題も改善できます。最終的には口腔内全体の精査をして咬合治療が必要となります。放置しておく咬合性外傷を引き起こし歯周病は急速に進行し、顎関節症、全身の疾患、自律神経の不調を引き起こす原因になります。



歯科セカンドオピニオン外来の相談は朝倉院長がお聞きします
インプラント・金属アレルギー・入れ歯・咬み合わせ・歯周病・矯正・
審美歯科・訪問診療などはお気軽にご相談ください。